



H17  
J901

000033

---

# 現代漢語方言

---

武漢大學教授 詹伯慧 著

筑波大學講師 樋口靖 訳

光生館

---

王力 題字

現代漢語方言

定価 3,800 円

---

昭和58年 5月15日 初版発行

著者——詹伯慧

訳者——樋口靖

発行者——中川廣一

印刷者——春山宇平

発行所——株式会社 光生館

〒112 東京都文京区大塚2-1-17

振替東京 4-130621 TEL 943-3335(代)

印刷——株式会社共立社印刷所

製本——佐抜製本株式会社

著者の承認をえて検印を省略しました

2242

---

© Zhen · Higuchi 1983

Printed in Japan

法律で認められた場合を除き、本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは著作権法違反となりますからご注意ください。

## まえがき

漢語方言は漢民族の言語の地方的分支である。漢語方言の知識を把握するということは、現代漢語の学習と研究にとって、漢語規範化の促進と文字改革の仕事の推行にとって、重要な実地的意義をもつ。豊富で多彩な漢語方言は、漢語の発展史を研究するにも、言語学理論一般を探求するにも、やはり欠くことのできない資料である。言語科学の発展につれて、国内外の学者の漢語方言研究に対する関心はますます深くなっているが、それはまことに当然のことである。

建国以来三十年、わが国の言語研究者は、漢語方言の調査研究のうえで多くの仕事をし、個別の方言の専門書や論文を少なからず発表している。ただ主観的客観的条件の制限をうけて、漢語方言の総合研究の仕事は、いまだよりよい展開をみていない。1959年、袁家驊教授等が編纂した《漢語方言概要》(文字改革出版社)は、この方面におけるひとつの試みであったといえよう。

二十余年前、袁家驊教授の《漢語方言概要》の編纂に協力したとき、私は、当時累積されていた資料にもとづいて、同時に、小冊子を一冊著わし、《概要》のダイジェスト版として、現代漢語方言の基礎知識を紹介し、言語科学の普及のため、いささか微力を尽くしたいと思った。しかし、ずっとこの願いを実現できないでいた。1958年以来、私は大学でなんとか「漢語方言学」の科目を講じたが、どの年度の学生たちも漢語方言のやさしい読み物が

ほしいと希望した。六十年代に入ってから、私は漢語方言の学術活動に参加し、各地方言を全面調査したたくさんの資料、とりわけ、多くの省(区)で編集された《方言概況》(初稿)と《言語学習便覧》に触れる機会があり、私の心には、いっそうこのような小冊子を著わしたいという思いが浮かんできた。ところが、「四人組」の残酷な迫害によって、科学研究に従事する資格を失い、十余年もの長い間、私のこのささやかな願いは実現できなかった。

1979年春、蘭州でひらかれた《現代漢語》教材作成協力会議に参加した同志たちが、《現代漢語知識叢書》の編纂を組織すべく提唱し、編集主任の黄伯榮教授は、私に、現代漢語方言を紹介する小冊子の著述にただちにとりかかるよう勧めてくれた。私は、とうとう、再び決心して、さっそく関係資料を漁り、多忙な仕事の中に時間をとり、まるまる一年を費して、この粗雑な原稿を書き終え、やっと永年の願いをはたすにいたった。

漢語方言の仕事は非常に複雑で、なおいっそう多くの調査研究の仕事を掘りさげ、繰りひろげなければならない。いま国内外の新しい成果は、まだそれをこの小冊子に取り入れるわけにはいかない。ここに用いられた資料は、やはり主として《漢語方言概要》と、六十年代以来国内のいくつかの大学で「漢語方言学」の科目を開設する際に編集された教材に拠っており、それに、各省(市、区)が編集発行した《方言概況》と《言語学習便覧》の一部、および刊行物に散見されるいくつかのモノグラフを加えた。紙幅があまり大きくならないよう、この小冊子は、漢語方言の音声、語彙、文法の特徴を総合的に紹介することに重点をおき(第二、

三、四章)、漢語七大方言の状況については、参考にすべき多くの専門的著作があり、《漢語方言概要》にもかなり詳細な記述があるので、ここではおおまかな輪郭のみを述べ、各方言の代表地点の音韻体系についても「簡単な紹介」をするにとどめた。著者のレベルに限りがあり、素材を駆使し、分析帰納する能力が低く、加うるに時間が倉卒としていたので、誤りがあるのは免れない。専門家、友人諸氏の指正によって、訂正の機会が得られることを希望するものである。

本書はすべて国際音声字母の表記を採用し、書中で言及した「古音」の概念は、一般には中古時期の《広韻》に代表される音韻を指す。書中に用いられてる方言資料は、既刊のものもあり、未刊のものもあるが、文中で一々注記しないので諒承されたい。ここで、黄家教、李如竜、許宝華、王福堂など、熱心に激励をして下さり、積極的に資料を提供して下さったいくにかの友人たち、および厦門大学漢語方言研究室の黄典誠、洪篤仁、周長楫同志、杭州大学中文系の傅国通同志、安徽師範大学中文系の孟慶惠同志に特に感謝したい。このかたがたの支持がなければ、この小冊子を編むことは難しかったのである。なお、王福堂同志には多忙をきわめるなか、本書の全稿を閲読していただき、いくつかの誤りを正す手助けをしていただいた。

最後に、湖北省新華印刷廠の労働者の方々にも感謝しなければならない。かれらはこのように記号の繁雑な書物の植字印刷のために多大の努力を惜しまれなかった。かれらの協力がなければ、この小著が読者にまみえることは、これまた、難しかったであらう。

4

まえがき

う。

詹 伯 慧

1980年3月

珞珈山にて

## 日本語訳版序

これは現代漢語方言を紹介した小著である。中国では、近年来、大学の現代漢語科目の教授にあわせて、《現代漢語知識叢書》シリーズの編集にとりかかっているが、この本は《叢書》の中の一つとして湖北人民出版社から発行出版された。

このような小著を著わして、漢語方言の知識を普及するためにいささか微力を捧げることは、私が漢語方言の仕事について、二十余年来のひとつの願いであった。1956年に袁家驊教授とともに《漢語方言概要》を編纂したときから、私はもう少し分量の少ない漢語方言の著作を書きたいとたえず思っていた。しかし種々の原因から、ずっと願いをはたすことができないでいた。いま八十年代になって、やっとこの願いは実現されたといえる。残念なことに、私の恩師袁家驊教授は昨年不幸にして鬼籍に入られてしまったので、私はこの「宿題」を老先生の面前に捧げて御批評を乞うことができない。それを思うと、私の心はとてもやりきれないのである。

この一年、私は招かれて東京大学の大学院生のために《漢語方言》を講じたが、基本的にはこの《現代漢語方言》の底稿を講義教材とした。樋口靖君は漢語方言の研究にたいへん興味をもち、私がかれの書いた漢語方言に関する若干の文章を読んで、おおいに見識があると感じた。一年來かれはいつも筑波大学から東大に来て私の講義を聞いていたので、いまかれがみずからこの

小著を日本語に訳出し、光生館より発行出版するのは、当然これ以上ふさわしいものはないといえよう。私は樋口君と光生館の厚意に心から感謝し、現代漢語方言を熱心に研究している多くの日本の友人にこの小著を捧げて、「磚を抛げて玉を引く」こととし、また中日の友誼の象徴としたいと願うものである。

おしまいに、私は恩師王了一(力)先生に深く感謝しなければならない。先生は、この小著の日本語訳版が上梓されるに当たって、特にはるばる北京から書名の題字を送って下さり、この小著のために誉れを添えてくださった。

詹 伯 慧

1981年3月 東京大学中文研究室にて

## 日译本序言

这是一本介绍现代汉语方言的小书。在中国，近年来为了配合大学里现代汉语课程的教学，正着手编辑一套《现代汉语知识丛书》。这本书就作为《丛书》的一种；由湖北人民出版社出版发行。

编写这样一本小书，为普及汉语方言知识贡献一点棉力，是我从事汉语方言工作二十多年来的一个心愿。打从1956年和袁家骅教授一起编写《汉语方言概要》时起，我总想写一本薄一点儿的汉语方言著作。可是由于种种原因，一直未能如愿。如今到了八十年代，这个愿望才算得以实现。可惜的是我的业师袁家骅教授已在去年不幸辞世了，我不能把这本“作业”拿到他老人家面前，请他给我批改。想起这一点，我的心情是很难过的。

近一年来，我应邀在东京大学大学院给研究生讲授《汉语方言学》，基本上就拿这本《现代汉语方言》的底稿作讲义。樋口清先生对汉语方言的研究很有兴趣，我读过他写的不少关于汉语方言的文章，觉得很有见地。一年来他经常从筑波大学到东大来听我的课。现在由他亲自把这本小书译成日语，让光生馆出版发行，自然是再合适不过的了。我非常感谢樋口先生和光生馆的美意，我愿意把这本小书献给许多热心研究现代汉语方言的日本朋友，作为“抛砖引玉”，也作为中日友谊的象征。

末了儿，我要深表感谢王了一(力)师，在这本小书日译本付梓的时候，特地从老远的北京给送来了书名的题字，为这本小书增添了光彩。

詹伯慧

1981年3月于东京大学中文研究室

## 目 次

まえがき

日本語訳版序

現代漢語方言分区地図…………… 1

国際音声字母表…………… 2

## 第一章 方言と方言学 …… 5

一 方言とはなにか…………… 5

二 方言差の形成される原因……………11

三 現代漢語方言の複雑性と一致性……………15

四 方言学と漢語方言の研究……………19

## 第二章 漢語方言の音声特色 ……30

一 声母における舌根調音点の保存と変化……………33

二 全濁声母の保存と消失……………34

三 f- と xu- の区別と混同……………35

四 n- と l- の区別と混同……………36

五 知・照系声母の異なる発展……………37

六 韻母における介音の分合……………41

七 韻母における二重母音と単母音の相互転化の現象……………44

八 鼻音韻尾の変遷……………46

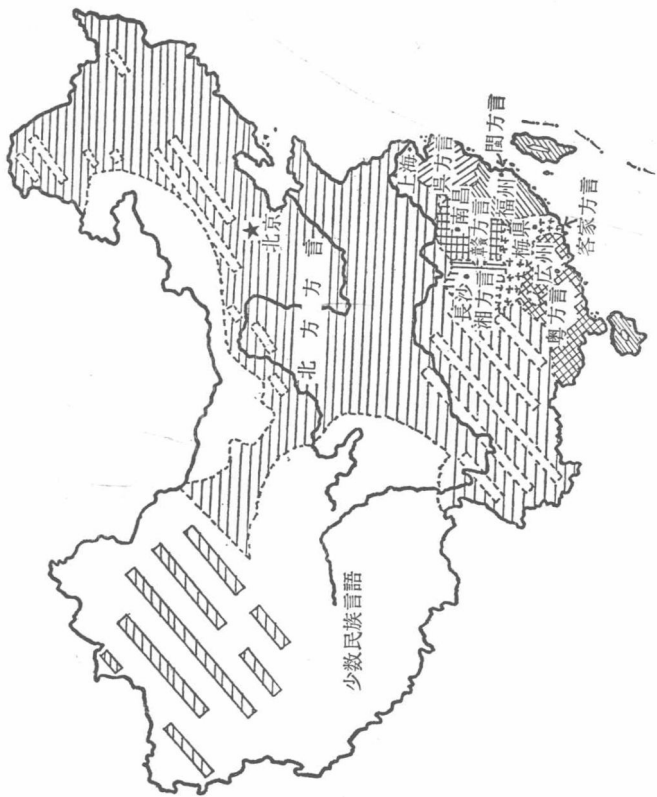
九 閉鎖音韻尾の保存と消失……………52

十 四声の変遷……………54

第三章 漢語方言の語彙特色 .....	58
一 同形異義 .....	60
二 同義異形 .....	62
第四章 漢語方言の文法特色 .....	71
一 形態構成法上の特色 .....	71
二 語の組合せ上の特色 .....	94
三 語の位置関係上の特色 .....	97
四 文構造上の特色 .....	102
五 品詞に存在する文法特色 .....	111
第五章 北方方言 .....	118
一 漢民族共通語の基礎方言 .....	118
二 四つの下位方言とその音声特色 .....	120
三 北方方言代表地点の声、韻、調の対照 .....	127
第六章 吳方言 .....	138
一 吳方言の形成と分布 .....	138
二 吳方言の音声特色 .....	145
三 蘇州話の音韻体系 .....	149
第七章 湘方言 .....	156
一 湘方言の形成と分布 .....	156
二 湘方言の音声特色 .....	159
三 長沙話と双峰話の音韻体系 .....	161

第八章 贛方言	173
一 贛方言の形成と分布	173
二 贛方言の音声特色	176
三 南昌話の音韻体系	177
第九章 客家方言	187
一 客家方言の形成と分布	187
二 客家方言の音声特色	193
三 梅県話の音韻体系	195
第十章 粵方言	204
一 粵方言の形成と分布	204
二 粵方言の音声特色	210
三 広州話の音韻体系	215
第十一章 閩方言	227
一 閩方言の形成と分布	227
二 閩方言の音声特色	235
三 厦門話と福州話の音韻体系	239
訳者注	263
訳者あとがき	279
現代漢語方言参考資料選目	283
詹伯慧教授言語学関係著作目録	319
地名索引	321
人名索引	327

書名索引.....	329
事項索引.....	331



現代漢語方言分區地圖

國際音聲字母表

調音方法	調音點		兩唇	唇齒	齒間	舌尖前	舌尖後	舌端 (舌尖及面)	前舌面 (中舌面)	舌根 (與舌面)	口蓋垂	咽喉	聲門	
	無聲	帶氣												
子	閉	無聲	p			t	t		t	k	q		ʔ	
	鎖	帶氣	p'			t'	t'		t'	k'	q'		ʔ'	
破	閉	無聲	b			d	d		d	g	g			
		帶氣	b'			d'	d'		d'	g'	g'			
	探	無聲		pf	tθ	ts	tʃ	tʃ	tʃ					
		帶氣		pf'	tθ'	ts'	tʃ'	tʃ'	tʃ'					
鼻	無聲													
	帶氣													
ふる	無聲													
	帶氣													
彈	無聲													
	帶氣													
側	無聲													
	帶氣													
側面摩擦	無聲													
	帶氣													
摩	無聲													
	帶氣													
無摩擦連續音之半母音	無聲													
	帶氣													
母音	高													
	半高													
母音	半低													
	低													